アプリ開発で地域活性化を目指す

小野山澪　栗田翔子　細工屋もも　戸田歩花
中里穂　橋本小南　指導者：児玉泰廣

1　研究の背景

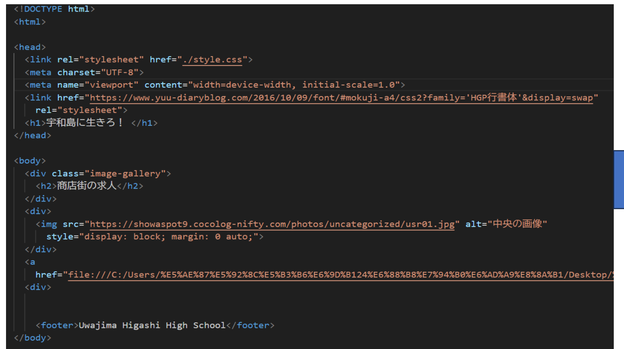
私たちは、宇和島市の商店街「きさいやロード」の活性化を目指し、アプリ開発をしようと考えた。近年、誰もが使っているスマートフォン。誰でも使いやすく、簡単に操作できるアプリ開発をすることで魅力を向上し、活性化させたい。

2　現地調査

きさいやロードで現地調査をした。そこで気づいたことが求人広告である。きさいやロードでは、現在、求人募集しているお店が６店舗ある。きさいやロードは年齢関係なく色々な人が訪れたり、学生の通学路にもなっている。地域に人口を定着させるためには働き口がないといけない。まず求人を見る方法としてのアプリを開発したい。

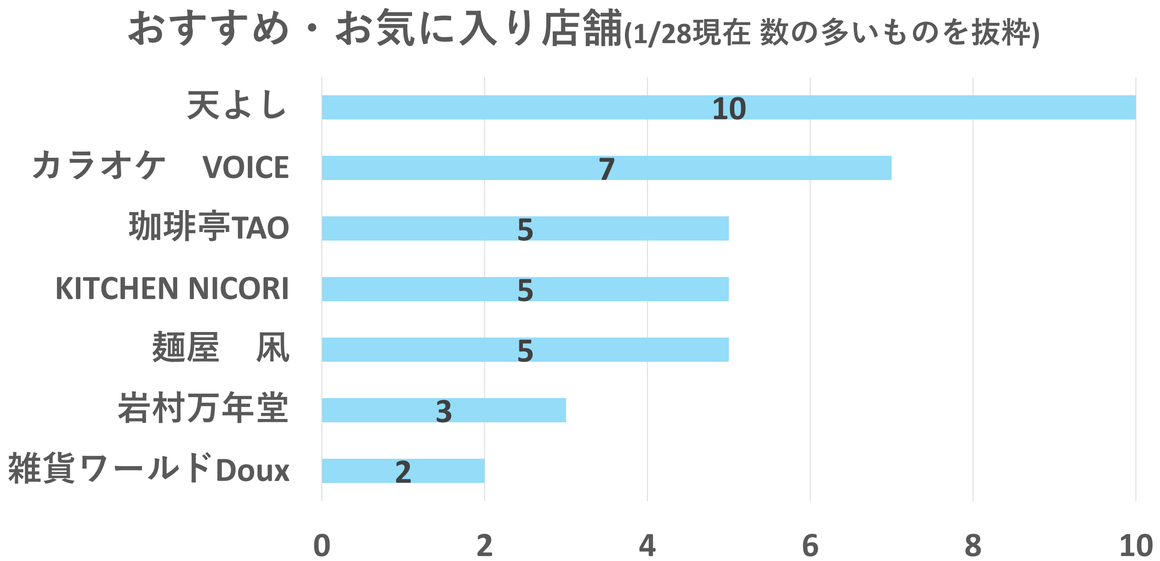
3　アプリ開発

アプリの開発には生成AI、ChatGPTを使用しながらVscode.で制作した。画面の背景は宇和島市のロゴマークをイメージした配色にした。



4　アンケート調査

お店の認知度を確認するため、全校生徒にteamsで、商店街の店舗でお気に入りの店舗についてアンケートをとり、結果は下のグラフのようになった。



5　今後の課題

今後は、求人募集している店舗を直接訪問して、求人内容を詳しく調査したいと思う。アプリの内容にも求人広告を入れ、より具体的に形作っていきたい。

また、アンケートの回答者をもっと増やすために工夫していきたい。

地域活性化のためにはアプリの周知も必要になるので、アプリを開発した後はそれをどのように使ってもらうか活用方法なども考えていきたい。